

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4601849号  
(P4601849)

(45) 発行日 平成22年12月22日(2010.12.22)

(24) 登録日 平成22年10月8日(2010.10.8)

(51) Int.Cl.

B60N 2/28 (2006.01)

F1

B60N 2/28

請求項の数 4 (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2001-107722 (P2001-107722)  
 (22) 出願日 平成13年4月5日(2001.4.5)  
 (65) 公開番号 特開2002-301960 (P2002-301960A)  
 (43) 公開日 平成14年10月15日(2002.10.15)  
 審査請求日 平成20年3月28日(2008.3.28)  
 審判番号 不服2009-3964 (P2009-3964/J1)  
 審判請求日 平成21年2月23日(2009.2.23)

早期審査対象出願

(73) 特許権者 391003912  
 コンビ株式会社  
 東京都台東区元浅草2丁目6番7号  
 (74) 代理人 100075812  
 弁理士 吉武 賢次  
 (74) 代理人 100091982  
 弁理士 永井 浩之  
 (74) 代理人 100096895  
 弁理士 岡田 淳平  
 (74) 代理人 100117787  
 弁理士 勝沼 宏仁  
 (72) 発明者 有 井 祐 輔  
 埼玉県浦和市南浦和3丁目36番18号  
 コンビ株式会社 南浦和テクノセンター内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 チャイルドシート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

乗用車のシート等に装着するチャイルドシートにおいて、  
 受台と、

受台上に回転自在に装着されたシート本体とを備え、

受台に、チャイルドシートを乗用車のシートに取り付けるシートベルトの肩ベルトを固定するロックオフデバイスが、その上部がチャイルドシートの中央軸線側に位置するように傾斜して設けられ、

ロックオフデバイスは基板部と、基板部に対して揺動自在に取付けられた蓋とを有し、その蓋を開いた状態の場合には蓋が開放状態を維持するように構成されていることを特徴とする、チャイルドシート。

【請求項2】

ロックオフデバイスの蓋を枢着するボス部の外周が偏芯され、蓋が開放されたとき蓋の基端部がボス部の外周の偏芯部に当接することを特徴とする、請求項1記載のチャイルドシート。

【請求項3】

ロックオフデバイスの蓋を枢着するボス部の外周には、開放された蓋の基端部が当接する偏芯部を形成する小突起が設けられていることを特徴とする、請求項2記載のチャイルドシート。

【請求項4】

10

20

ロックオフデバイスの基板部の前面側には、そのシートベルト案内用の凹部が形成されていることを特徴とする、請求項1乃至3のいずれかに記載のチャイルドシート。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、車両用シートに取り付けるチャイルドシートに関する。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

一般に、乗用車等に乳幼児を乗せる場合には、乳幼児の保護のためにチャイルドシートを使用することが規定されている。このチャイルドシートは乗用車等の補助席や後部座席にシートベルト等によって取り付けられるようにしてある。

10

【0003】

ところで、このようなチャイルドシートを乗用車等のシートに固定する場合には、シートベルトの腰ベルトにより例えばチャイルドシートの受け台の後部を乗用車のシートに装着するとともに、肩ベルトにより受け台の背もたれ部に固定することが行われている。そこで、上記肩ベルトを受け台の起立部に固定するために上記起立部の前面には左右に肩ベルトを案内保持するためのロックオフデバイスが設けられている。

【0004】

ところが、上記ロックオフデバイスは互いに平行にしてあり、斜めに延びる肩ベルトに対して傾斜してしているため、肩ベルトにしわが寄ってしまったり、ベルトが本来の位置とは異なる場所でロックされることがある。その為、増し締めを行うときに必要以上に力を掛けなければならなくなったり、増し締めが上手くできないことがある等の問題がある。

20

【0005】

また、蓋を被せるタイプのロックオフデバイスはベルトの取付時に蓋がフリーの状態になっているため、ベルトを取り付けようとする場合に蓋が閉まってしまい、正しい位置にベルトが取り付けられているか確認するときに蓋を持ち上げて確認する必要がある等の問題がある。

【0006】

本発明は、このような点に鑑み、肩ベルトの装着を容易に装着することができるようにしたチャイルドシートを得ることを目的とする。

30

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明は、乗用車のシート等に装着するチャイルドシートにおいて、受台と、受台上に回転自在に装着されたシート本体とを備え、受台に、チャイルドシートを乗用車のシートに取り付けるシートベルトの肩ベルトを固定するロックオフデバイスが、その上部がチャイルドシートの中央軸線側に位置するように傾斜して設けられていることを特徴とするチャイルドシートである。

【0008】

本発明は、ロックオフデバイスは基板部と、基板部に対して揺動自在に取付けられた蓋とを有し、その蓋を開いた状態の場合には蓋が開放状態を維持するように構成されていることを特徴とするチャイルドシートである。

40

【0009】

本発明は、ロックオフデバイスの蓋を枢着するボス部の外周が偏芯され、蓋が開放されたとき蓋の基端部が上記大径とされたボス部の外周に圧接されることを特徴とするチャイルドシートである。

【0010】

本発明は、ロックオフデバイスの蓋を枢着するボス部の外周には、開放された蓋の基端部が当接する小突起が設けられていることを特徴とするチャイルドシートである。

【0011】

本発明は、ロックオフデバイスの基板部の前面側には、そのシートベルト案内用の凹部

50

が形成されていることを特徴とするチャイルドシートである。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

【0013】

図1は、本発明のチャイルドシートの斜視図、図2はその分解斜視図であって、このチャイルドシートは、受け台1、リクライニングベース2、及びシート本体3によって構成されている。上記リクライニングベース2は受け台1に前後方向のみに移動可能に装着されており、そのリクライニングベース2に、シート本体3がリクライニングベース2の表面に垂直な軸線回りに回動可能に装着されている。

10

【0014】

しかして、上記リクライニングベース2を受け台1に対して前後に移動することによって、シート本体3を図3の実線或いは一点鎖線で示す状態にすることができ、チャイルドシートを前向き状態で、そのリクライニングを調節することができる。また、シート本体3を図4の実線で示す状態にした後前記軸線周りに反転することにより、一点鎖線で示すように後ろ向き状態に変更することができる。

【0015】

上記受け台1の基板部4には、図2及び図5に示すように、その左右部に前後方向に延びるガイド溝5が設けられており、そのガイド溝5に、リクライニングベース2の下部両側部に設けられた前後方向に延びる脚部6が摺動可能に係合されている。上記ガイド溝5の底面は凹状に湾曲され、リクライニングベース2の後部側で上方位置になるようにしてあり、一方リクライニングベース2の脚部6の底面も上記ガイド溝5の底面の形状に合わせて下方に凸状に湾曲されている。また、上記脚部6には、図2に示すように、弧状のスロット7が形成されており、そのスロット7に受け台1に設けられたリクライニングピン8に係合され、受け台1に対してリクライニングベース2が保持されると共にその移動範囲が規定されている。

20

【0016】

上記受け台1の中央部には前後方向に延びる回転リクライニングレール9が設けられている。上記回転リクライニングレール9は、互いに平行な側壁を有する前後方向に延びる溝からなるリクライニング案内内部10を有し、そのリクライニング案内内部10の後方側端部に上記リクライニング案内内部10の溝幅より大径の円筒状の凹部からなる反転案内内部11が設けられている。また、受け台1の起立部12の上部には、後述するシート本体3の背面に設けられた接続ガイド13が摺動する左右一対の溝部14が形成されており、その両溝部14にはそれぞれ接続ピン15が左右方向に進退可能に装着されている。

30

【0017】

上記受け台1の中央部に設けられた回転リクライニングレール9のリクライニング案内内部10の底面部には左右一対のロック穴16が前後方向に複数対（図においては3対）設けられており、また、反転案内内部11には左右一対のロック穴17が設けられている。上記左右一対のロック穴16の間隔と左右一対のロック穴17の間隔とは同じであり、受け台1の前後方向軸線に対して互いに反対方向に同じ寸法だけオフセットしてある。すなわち、上記前後方向軸線と左側のロック穴16との間隔は、前後方向軸線と右側のロック穴17との間隔と等間隔1<sub>1</sub>となるようにしてある。

40

【0018】

ところで、前記リクライニングベース2に装着されているシート本体3には、図2及び図7に示すように、その下部に円盤20が設けられており、その円盤20から前記回転リクライニングレール9に係合するガイド片21がリクライニングベース2を貫通して下方に突出されている。上記ガイド片21は、回転リクライニングレール9のリクライニング案内内部10の互いに平行な側壁に摺接案内される平行側面21aを有するとともに、前後両面に前記反転案内内部11の円筒部の周壁面に摺接回動し得る円弧状部21bが形成されている（図6）。

50

## 【0019】

上記ガイド片21には、2本のロックピン22が貫挿されており、その下端部が前記回転リクライニングレール9の各一对のロック穴16或いは17に選択的に挿入係合されるようにしてある。上記左右のロックピン22は上部で互いに連結されており、その連結部22aが円盤20に枢着されたリクライニングカム23の一端に枢着され、そのリクライニングカム23の他端が、円盤20の前面側に枢着されたリクライニングレバー24にリンク25を介して連結されている(図12)。また、上記リクライニングカム23と円盤20との間にはスプリング26が張設されており、左右のロックピン22が下方に付勢されている。

## 【0020】

しかして、上記リクライニングレバー24を引き上げるとリンク25を介してリクライニングカム23が揺動され、スプリング26に抗して左右のロックピン22が上動され、前記回転リクライニングレール9の各一对のロック穴16或いは17から離脱され、その係合が解放される。一方、リクライニングレバー24を離すとスプリング26によってロックピン22が下方に引き下げられ、ロック穴16或いは17への係合状態に戻される。

## 【0021】

ところで、前記円盤20には周方向に延びる回転レール27が設けられており、その回転レール27にリクライニングベース2に固着された複数個のガイド29が上方から係合され、そのガイド29に案内されて円盤20がシート本体3とともにリクライニングベース2上で回転可能としてある。また、上記回転レール27にはシート本体3が前向き状態の時に後方に位置する部分に或範囲にわたって図8に示すように切り欠き27aが形成されている。

## 【0022】

一方、受け台1の起立部12の下部には、前記シート本体3のガイド片21が反転案内部11位置に位置している状態の時に上記回転レール27に係合する回転ガイド28が設けられている。上記回転ガイド28はその先端部に下方に向く案内片28aが突設されており、その案内片28aに回転レール27の内周面が摺接案内されるようにしてある。

## 【0023】

また、シート本体3の芯材3aにおける背当て部の上部背面には、図10に示すように、金属製の変形防止補強板30が装着されている。この変形防止補強板30の両端には、図11に示すように、それぞれ接続ガイド13が後方に屈曲形成されており、その接続ガイド13が前記受け台1の起立部12に形成されている溝部14に係合され、接続ガイド13に形成されている弧状のリクライニングスリット13aに前記接続ピン15が挿入係合されるようにしてある。また、上記変形防止補強板30にはベルト挿通口30aも穿設されており、ベルト挿通口の補強が行われている。

## 【0024】

しかして、図3に示すように、シート本体3が前向き状態の時にはガイド片21が受け台1のリクライニング案内部10の位置にあり、ロックピン22がロック穴16のいずれかに係合固定されるとともに、接続ガイド13のリクライニングスリット13aに接続ピン15が挿入係合されている。したがって、リクライニングレバー24を操作することによりロックピン22をロック穴16から解放し、シート本体3を前後に移動しロックピン22を他のロック穴16に係合させることにより、図3の実線或いは一点鎖線で示すようにリクライニングの調節を行うことができる。

## 【0025】

一方、ロックピン22をロック穴16から解放して、さらにシート本体3を後方に移動させガイド片21を反転案内部11の位置に移動させると、そのガイド片21の移動によって後述のように接続ピン15が後退し、接続ガイド13と接続ピン15との係合が解放され、シート本体3が図4の実線で示す状態となる。このときシート本体3の円盤20の後端部が回転ガイド28の下方に挿入された状態になる。そこで、シート本体3を180°反転させると、シート本体3が図4の一点鎖線で示すように後ろ向き使用の状態になり、

10

20

30

40

50

ロックピン 2 2 がロック穴 1 7 に係合しその位置が固定されるとともに、円盤 2 0 の回転レール 2 7 が図 9 に示すように回転ガイド 2 8 の案内片 2 8 a に係合しシート本体 3 の前後移動が確実に防止される。

#### 【0026】

ところで、受け台 1 内には、図 1 2、図 1 3 に示すように、反転案内 1 1 の下方に第 1 のカム 3 1 が揺動可能に設けられており、リクライニング案内 1 0 の下方には第 2 のカム 3 2 が揺動可能に設けられている。上記第 1 のカム 3 1 及び第 2 のカム 3 2 はそれぞれ反転案内 1 1 及びリクライニング案内 1 0 に形成されている開口部 3 3 及び 3 4 から上方に突出し得るようにしてあり、両カム 3 1 及び 3 2 は一方のカムが起立し回転リクライニングレール 9 上に先端が突出しているときには他方のカムが回転リクライニングレール 9 から引き込んだ状態になるようにリンク 3 5 により連結されている。すなわち、前記ガイド片 2 1 が反転案内 1 1 に移動するとそのガイド片 2 1 の移動によって第 1 のカム 3 1 が傾倒され、ガイド片 2 1 が反転案内 1 1 からリクライニング案内 1 0 に移動してくると第 2 のカム 3 2 が傾倒されるようになっている。そして、上記第 1 のカム 3 1 の下端部にはリンクロッド 3 6 に一端が連結されておりそのリンクロッド 3 6 の他端が受け台 1 の後部に設けられたベルクランク 3 7 に連結されている。

10

#### 【0027】

また、上記第 1 のカム 3 1 と同一軸にロックカム 3 8 が枢着されている。このロックカム 3 8 には、反転案内 1 1 上に突出するロック片 3 8 a と、そのロック片 3 8 a の後方に、上方に傾斜する傾斜部が前面に形成された突部 3 8 b が設けられており、ロックカムスプリング 3 9 により上記ロック片 3 8 a が起立して反転案内 1 1 上に突出するように付勢されている。

20

#### 【0028】

受け台 1 の前面側にはつまみを有する操作ダイヤル 4 0 が縦軸周りに回転可能に設けられており、その操作ダイヤル 4 0 の一端に操作シャフト 4 1 が取り付けられている。上記操作シャフト 4 1 の後端は L 字状に折曲されており、その折曲部 4 1 a が上記第 1 のカム 3 1 及びロックカム 3 8 を軸支する支持部材 4 2 の前後方向に延びる長孔 4 2 a に挿通され、前記第 1 のカム 3 1 及びロックカム 3 8 の後方に配設されている。また、上記操作ダイヤル 4 0 の他端にはダイアルスプリング 4 3 の一端が装着されており、そのダイアルスプリング 4 3 により操作シャフト 4 1 が前方に付勢されている。

30

#### 【0029】

一方、図 1 4 に示すように、受け台 1 の起立部 1 2 の上部背面には接続ピン保持板 4 4 が設けられており、その接続ピン保持板 4 4 に上下摺動可能に設けられているカム板 4 5 がリンク 4 6 によってベルクランク 3 7 に連結されている。上記接続ピン保持板 4 4 にはカム板 4 5 の左右に操作腕 4 7 の中間部が枢着されており、その各操作腕 4 7 の上端部に設けられた長孔 4 7 a にそれぞれ左右の接続ピン 1 5 の突部 1 5 a が係合連結され、また上記各操作腕 4 6 の他端部が前記カム板 4 5 のカム溝 4 8 に係合されている。そして上記カム板 4 5 が接続ピン保持板 4 4 との間に張設されたバネ 4 9 に抗して下方に下げられると、カム溝 4 8 との係合により操作腕 4 7 の上端部が互いに近づく方向に揺動され、左右の接続ピン 1 5 が引っ込み方向に移動されるようにしてある。

40

#### 【0030】

しかして、常時においては操作ダイヤル 4 0 がダイアルスプリング 4 3 により一定方向に付勢されているので、操作シャフト 4 1 が操作ダイヤル 4 0 方向に引っ張られている状態にあり、操作シャフト 4 1 が第 1 のカム 3 1 の凹部 3 1 a に係合しており、第 1 のカム 3 1 及びロックカム 3 8 は上記操作シャフト 4 1 によりその回転が抑制されている。したがって、シート本体 3 を後方に移動させ反転案内まで移動させようとする、ガイド片 2 1 が第 1 のカム 3 1 及びロックカム 3 8 に当接して両者を回転させようとするが、第 1 のカム 3 1 及びロックカム 3 8 が上記操作シャフト 4 1 によりその回転が抑制されているのでシート本体 3 が反転案内 1 1 位置まで移動することは不可能である（図 1 5 (a)）。

50

## 【0031】

そこで、シート本体3を前向き使用状態から後ろ向き使用状態にするため操作ダイヤル40を図13において反時計方向に回転すると、操作シャフト41がカム31の支持部材42の長孔42aを摺動し、図15(b)のように操作シャフト41が第1のカム31の凹部31aから離脱し第1のカム31のロックが解除され、シート本体3の反転案内11への移動が可能となる。この状態からさらに操作ダイヤル40を回転させると、操作シャフト41はロックカム38の突部38bに当接してロックカム38を回転させた後、その突部38aを乗り越える。したがって、ロックカム38がロックカムスプリング39によって初期位置に復帰され、操作シャフト41の折曲部41aがロックカム38の後端面に係合し、ロック解除状態に保持される(図15(c))。

10

## 【0032】

この状態においてシート本体3を反転案内11方向に移動させると、ガイド片21が第1のカム31及びロックカム38に当接して両者が図15(d)のように時計方向に回転させられる。したがって、リンクロッド36を介してベルクランク37が時計方向に回転され、リンク46を介してカム板45がバネ49に抗して下方に引き下げられる。このようにしてカム板45が下方に移動すると左右の操作腕47が回転され左右の接続ピン15が引き込まれ、シート本体3の接続ガイド13と受け台1との連結が解除される。

## 【0033】

したがって、シート本体3を完全に反転案内11の位置まで移動させることができる。しかして、このようにしてシート本体3を反転案内11に移動させた後シート本体3を180°反転させると、ロックピン22がロック穴17に係合しシート本体3を後ろ向き使用状態に固定することができる。

20

## 【0034】

一方、この時操作シャフト41は図15(d)に示すように倒伏している第1のカム31に当接しているので初期位置まで復帰することはない。

## 【0035】

これと逆に、後ろ向き使用状態から前向き使用状態に変更する場合には、リクライニングレバー24を操作してロックピン22をロック穴17から離脱し、シート本体3を前向き使用状態に回転した後、シート本体3をリクライニング案内10の方向に移動させる。するとこの移動によってガイド片21の先端部が第2のカム32に当接し、この第2のカム32が反時計方向に揺動させられ、リンク35を介して第1のカム31が初期位置に復帰される。したがって、カム板45が上方に引き上げられ、左右の操作腕47の上部が離間する方向に回転され、左右の接続ピン15が突出されて接続ガイド13のリクライニングスリット13aに係合される。このとき、バネ49はカム板45を確実に上方へ引き上げる作用をする。したがって、シート本体3を適宜前方に移動させ、ロックピン22をロック穴16に係合することによりシート本体3を前向き使用状態に固定することができる。

30

## 【0036】

このように、シート本体3が前向き使用状態の時にはシート本体3の接続ガイド13のリクライニングスリット13aに接続ピン15が挿入係合されているので、上記接続ガイド13と接続ピン15とによってシート本体3と受け台1とが接続されており、シート本体3が上記接続ガイド13によっても受け台1に支持保持され、当該部分の剛性が高められ、衝撃等によりシート本体3の背部が前方へ変形されるようなことが防止される。

40

## 【0037】

また、シート本体3を前向き使用状態から後ろ向き使用状態に変更する場合には、シート本体3の移動によりシート本体3と受け台1との接続が自動的に解除され、さらに、後ろ向き使用状態から前向き使用状態に変更した場合にはシート本体3と受け台1とが自動的に接続される。したがって、シート本体3の使用状態の変更の煩雑さを軽減することができる。

## 【0038】

50

ところで、前述のように操作ダイヤル４０はシート本体３のリクライニング動作と連動しているので、受け台１の前方で操作ダイヤル４０の下方部に、図１６に示すよう、前向き使用可、及び前向き使用不可を表示するステッカー５０を貼り、ダイヤルのつまみ４０ａでその位置を示すようにすることができる。しかして、このようなステッカー５０を貼ることにより、リクライニングが正規の位置であることを確認することができる。

#### 【００３９】

また、上述のようなチャイルドシートは、乗用車のシート上にシートベルトを使用して固定する。この場合、図１７に示すように、シートベルトの腰ベルト５１により受け台１の後部を乗用車のシートに装着すると共に、肩ベルト５２によって受け台１の起立部１２を乗用車の背もたれ部に固定する。

10

#### 【００４０】

そこで、上記肩ベルト５２を受け台１の起立部１２に固定するために、上記起立部１２の前面にはその左右にロックオフデバイス５３、５３が設けられている。このロックオフデバイス５３はそれぞれ肩ベルト５２の傾斜に対応して上端側が起立部１２の中心軸線に接近するように傾斜して配設されるとともに、図１８に示すように、ロックオフデバイス５３の基板部５３ａの前面側には肩ベルト５２案内用の凹部５３ｂが設けられている。しかして、肩ベルト５２によって起立部１２を固定する場合、斜め方向に延びる肩ベルト５２に対して上記ロックオフデバイス５３がほぼ直交するようになり、さらに肩ベルト５２が上記凹部５３ｂにより案内されてずれることがなく、肩ベルト５２の締め付けを容易に行うことができる。

20

#### 【００４１】

また、上記基板部５３ａの蓋取り付け用ボス部５３ｃの外周は偏芯状に形成されており、蓋５３ｄを開方向に揺動したときその蓋５３ｄの端部が上記ボス部５３ｃの外周に当接し、蓋５３ｄがベルト取付操作時に閉じることがないようにしてある。しかして、蓋を開けて肩ベルト５２をロックオフデバイス５３に装着するときに、その間蓋５３ｄを手で支持しておく必要がなく、ベルトの取付を容易に行うことができる。なお、上記実施の形態においてはボス部を偏芯状にしたものを示したが、ボス部の外周に小突起部を形成して同様な作用を奏するようにしてもよい。

#### 【００４２】

一方、チャイルドシートに幼児を乗せる場合、幼児がずり落ちないようにするために、幼児には腰ベルト及び肩ベルトを装着するけれども、その際幼児の大きさに対応して肩ベルトの長さを調節する必要がある。そこで、図１９に示すように、幼児用肩ベルト５５にはシート本体３に背面側において調節ベルト５６が連結されており、その調節ベルト５６がシート本体３の座部内前方位置に設けられたクイックアジャスター５７に挿通され、その先端部が上記シート本体３内に設けられた自動巻取り装置５８に取り付けられている。

30

#### 【００４３】

しかして、幼児をチャイルドシートに座らせた後、幼児用肩ベルト５５を調節する際に調節ベルト５６を引いて幼児用肩ベルト５５の長さを調節すると、シート本体３の前部で弛んだ調節ベルト５６は自動巻取り装置５８に自動的に巻き取られ、余分の調節ベルトがシート本体３の前部等で弛んだ状態のままとなることがなく、上記弛んだ調節ベルトに幼児の足が引っかかりたり、或いは弛んだ調節ベルトが他のものに絡まったり、シート本体３が回転した時に他の部分との間に挟まってしまう等の思わぬ事故の発生を防止することができる。

40

#### 【００４４】

##### 【発明の効果】

本発明は上述のように構成したので、肩ベルトの装着を容易にかつ正確に行うことができ、増し締めも容易に行うことができ、チャイルドシートの確実なシートの取付を行うことができる。

##### 【図面の簡単な説明】

【図１】本発明のチャイルドシートの斜視図。

50

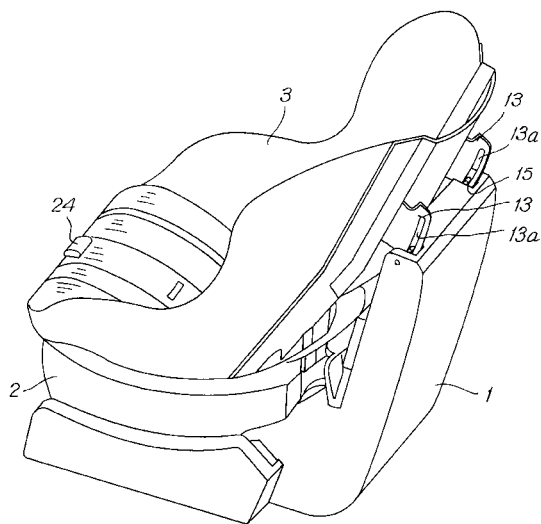
- 【図 2】本発明のチャイルドシートの分解斜視図。  
 【図 3】本発明のチャイルドシートのリクライニング動作説明図。  
 【図 4】本発明のチャイルドシートの後ろ向き使用状態説明図。  
 【図 5】受け台の斜視図。  
 【図 6】受け台の平面図。  
 【図 7】シート本体の斜視図。  
 【図 8】本発明のチャイルドシートのシート部を取り外した状態を示す図。  
 【図 9】シート本体を反転したときの図 8 と対応する図。  
 【図 10】シート本体の変形防止用補強板取付状態を示す図。  
 【図 11】変形防止用補強板の斜視図。  
 【図 12】シート本体の縦断側面図。  
 【図 13】第 1 及び第 2 のカムの操作機構斜視図。  
 【図 14】接続ピン操作機構図  
 【図 15】(a)乃至(d)は第 1 のカムおよび第 2 のカムの作動説明図。  
 【図 16】受け台の前面に添着したシートの図。  
 【図 17】受け台のシートベルトによる装着状態説明図。  
 【図 18】ロックオフデバイスの蓋を開けた状態を示す図。  
 【図 19】幼児シートベルトの概略構成を示す図。

【符号の説明】

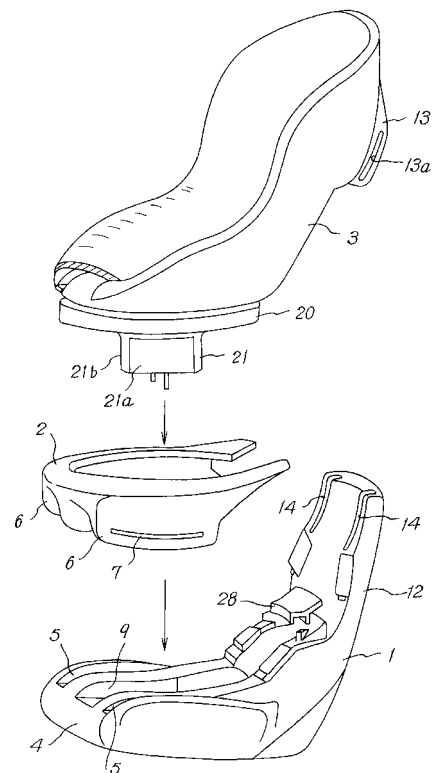
- |       |              |    |
|-------|--------------|----|
| 1     | 受け台          | 20 |
| 2     | リクライニングベース   |    |
| 3     | シート本体        |    |
| 4     | 基盤部          |    |
| 5     | ガイド溝         |    |
| 6     | 脚部           |    |
| 8     | リクライニングピン    |    |
| 9     | 回転リクライニングレール |    |
| 10    | リクライニング案内内部  |    |
| 11    | 反転案内内部       |    |
| 12    | 起立部          | 30 |
| 13    | 接続ガイド        |    |
| 13a   | リクライニングスリット  |    |
| 15    | 接続ピン         |    |
| 16、17 | ロック穴         |    |
| 20    | 円盤           |    |
| 22    | ロックピン        |    |
| 24    | リクライニングレバー   |    |
| 27    | 回転レール        |    |
| 28    | 回転ガイド        |    |
| 29    | ガイド          | 40 |
| 30    | 変形防止補強板      |    |
| 31    | 第 1 のカム      |    |
| 32    | 第 2 のカム      |    |
| 36    | リンクロッド       |    |
| 37    | ベルクランク       |    |
| 38    | ロックカム        |    |
| 40    | 操作ダイヤル       |    |
| 41    | 操作シャフト       |    |
| 43    | ダイヤルスプリング    |    |
| 45    | カム板          | 50 |

- 46 リンク
- 47 操作腕
- 48 カム腕
- 50 ステッカー
- 51 腰ベルト
- 52 肩ベルト
- 53 ロックオフデバイス
- 55 幼児用肩ベルト
- 56 調節ベルト
- 57 クイックアジャスター
- 58 自動巻取り装置

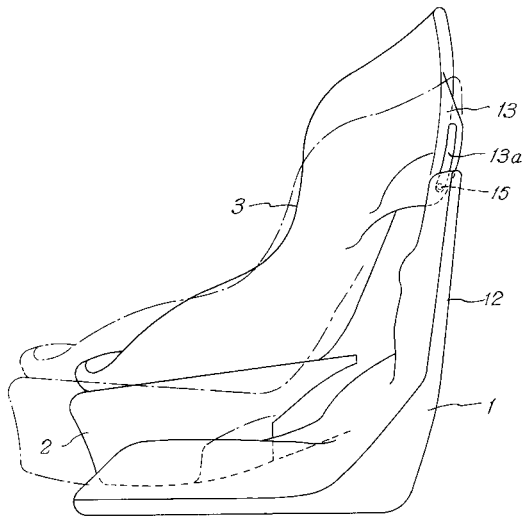
【図 1】



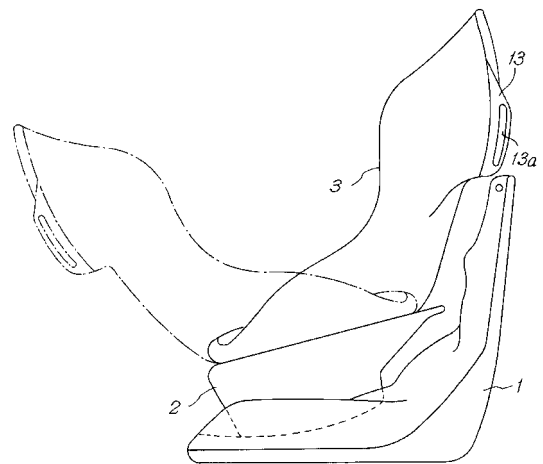
【図 2】



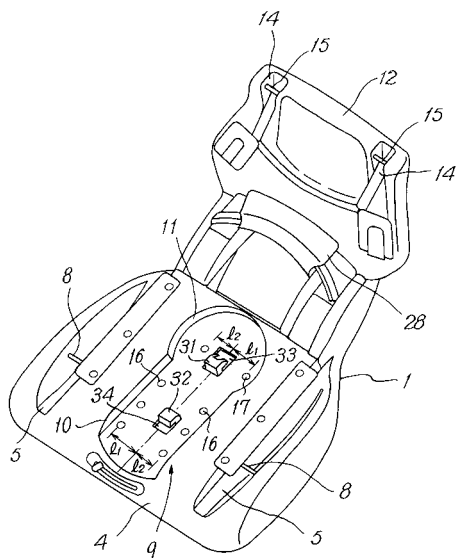
【図 3】



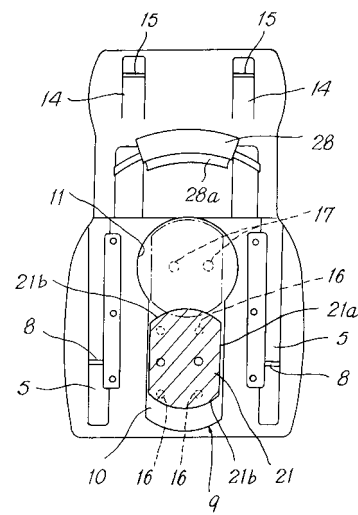
【図 4】



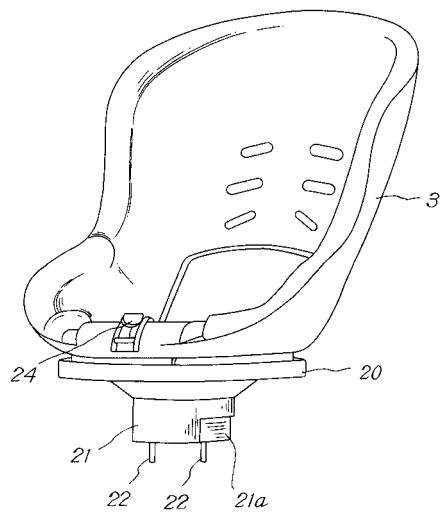
【図 5】



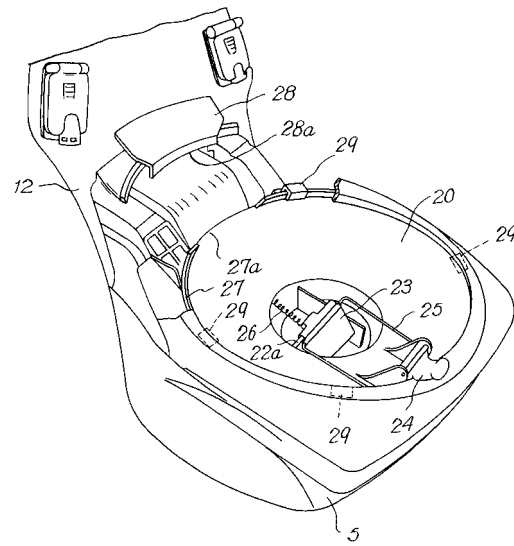
【図 6】



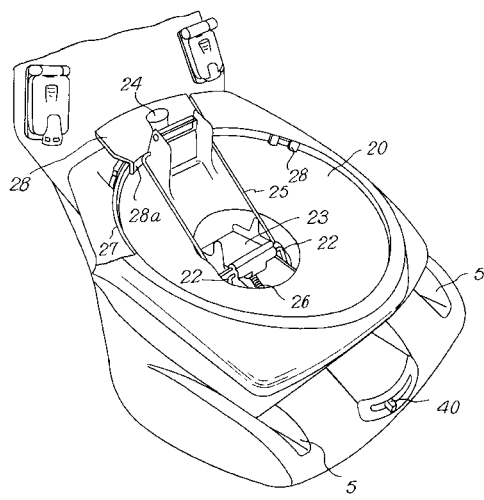
【図 7】



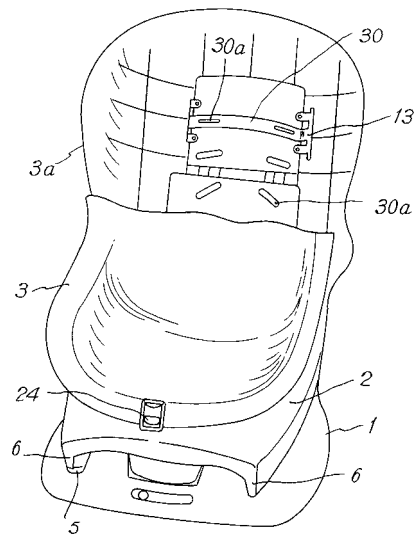
【図 8】



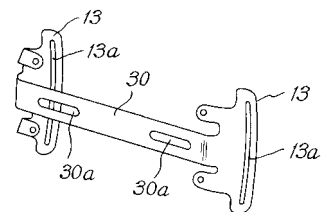
【図 9】



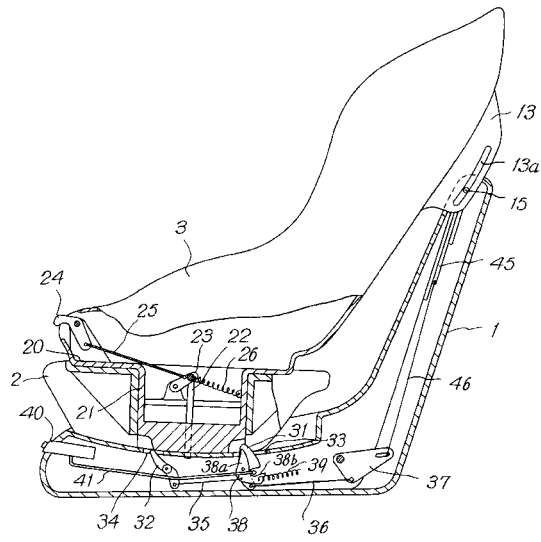
【図 10】



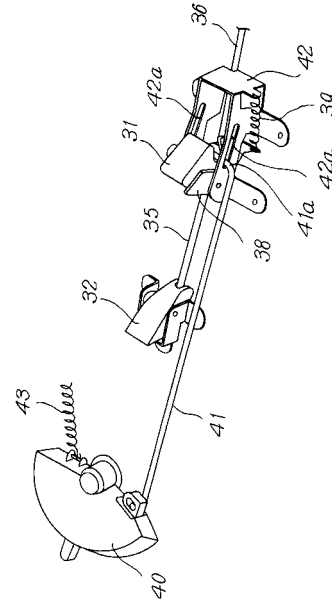
【図 11】



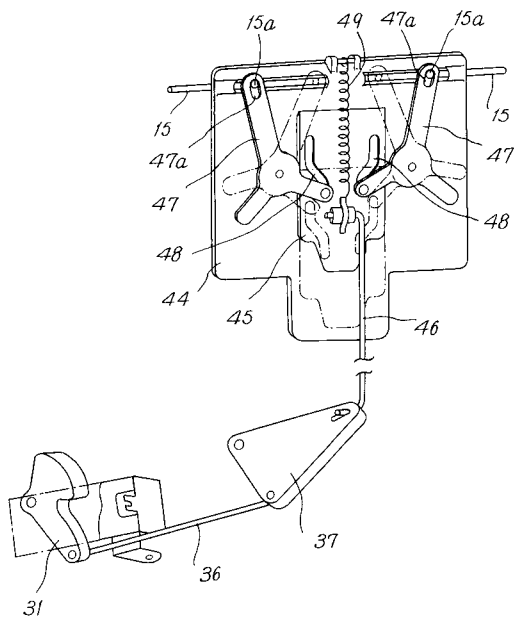
【図 12】



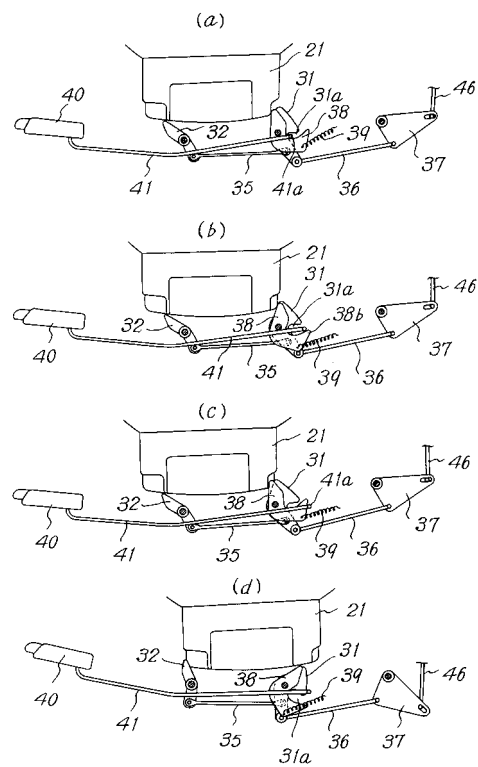
【図 13】



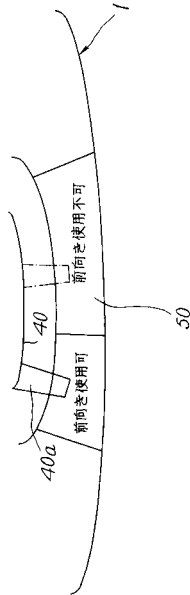
【図 14】



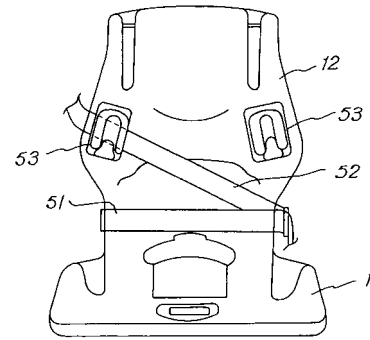
【図 15】



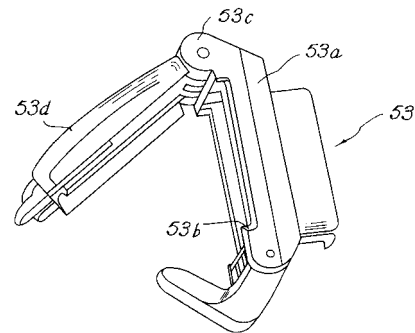
【図 16】



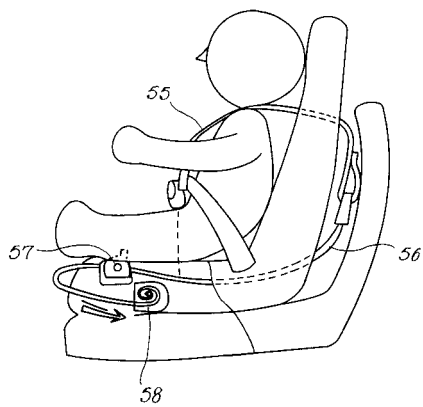
【図 17】



【図 18】



【図 19】



---

フロントページの続き

合議体

審判長 丸山 英行

審判官 金丸 治之

審判官 小関 峰夫

(56)参考文献 英国特許出願公開第2 2 8 8 2 0 2 (GB, A)

実開昭5 3-1 6 4 3 2 1 (JP, U)

特開2 0 0 0-1 0 8 7 3 9 (JP, A)

実開昭6 2-1 2 9 9 4 5 (JP, U)

実公昭4 8-6 1 2 1 (JP, Y1)

特開昭5 5-9 3 4 8 2 (JP, A)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B60N 2/28

B60R 22/18-22/26